

X II 図書館

1 目的

図書館は、必要な図書館資料を収集・管理し、教職員・学生の利用に供し、教育及び学術研究に資することを目的とする。

2 活動目標

- 1) 人的・物的教育資源、環境整備と改修を企画立案・運用する。
- 2) 図書館資源を利用した効果的な学習支援を企画立案・運用する。
- 3) 図書館の運営に関する企画立案及び運用を効果的に実践する。
- 4) 図書館事務室の業務処理及び環境の改善を企画立案・運用する。
- 5) 情報の一元管理及びファイリングシステムを企画立案・運用する。

3 組織

構 成 員	
館 長	鈴木 陽子（教授）
館 員	佐藤 智佳子（副主事）、大島 美知子（主査）、臨時職員 3 名
運営委員	木村 節子（講師）、坂本 優子（講師）、二葉 千鶴（講師）

4 施設概況

1) 開館

(1) 開館時間

曜 日	授業開講期間	左記以外の時間
月～金	9 時～19 時	9 時～17 時
土	9 時～16 時	9 時～16 時

(2) 休館日

日曜日、国民の祝日、飛鷗祭期間、その他館長が必要と認める日。

2) 設備

閲覧室、開架室(K館)と書庫(J館)があり、総延べ面積は、約 355 m²である。設備は閲覧席 38、視聴覚用機材 2 台、利用者用パソコン 4 台(文献検索用含む)、コピー機(白黒・カラー両用) 1 台である。K館閲覧室に無線 LAN あり。所蔵資料は図書 40,377 冊、雑誌 684 点、視聴覚資料 1,344 点である。

3) 情報検索

館内で、以下のデータベースによる文献検索ができる。

① 医中誌 Web

国内で発行されている医学、歯学、薬学および看護学などの関連分野のデータベース。
1983 年から検索可能。

② JDreamIII

国内で発行されている看護学、医学、薬学などに関係する文献が 1981 年から検索可能。
医学・薬学予稿集全文データベースも検索できる。

③ CiNii

学協会誌、大学研究紀要、国立国会図書館の雑誌記事索引データベースなどが検索できる。
医学・看護学系以外の論文検索にも使うことができる。

④ 最新看護索引 Web 版

日本看護協会看護教育研究センター図書館で編集している看護文献データベース。国内発行の看護・周辺領域の雑誌・紀要等の中から看護に有用と思われる文献が収録されている。
1987 年から検索可能。

⑤ 系統別看護師国家試験問題 Web

過去の問題、オリジナル模擬問題などの回答・解説を収録している。
問題を解きながら重要事項をチェックできる自己学習に最適なデータベース。

⑥ メディカルオンライン

医学系雑誌・学会誌等に掲載された論文のフルテキストを検索することができる。提供されるフルテキストはすべて著作権処理済。

⑦ Pub Med

米国国立医学図書館が提供する 24 時間無料で利用できる医療文献データベース。
1948 年以降に登録された文献データ約 2,000 万件が収録されている。

5 活動概要

2015 年度の 5 つの活動目標 1) から 5) について、次のような活動を行なった。

1) 人的・物的教育資源、環境整備と改修について

① ブックディテクションのリニューアル

図書館入口に設置しているブックディテクションシステムは設置から 10 年以上を経過し、誤作動や故障が増え、部品が生産終了となっていて修理も困難のため、2015 年 6 月に新しい機種にリニューアルした。

② 館内掲示・表示の見直し

新着雑誌は、雑誌を立てて保管しているが雑誌ごとの区切りが分かり難いため、個別のタイトル見出しを作成して表示し、利用者が探し易く、館員も配架し易いように改善した。

利用者が図書館の資料をコピーする際には、事前に「文献複写申込書」に記入し館員がチェックを行なっている。著作権について利用者への周知と注意を促すため、カウンターやコピー機近くに、なぜ「文献複写申込書」の記入が必要かという内容の掲示物を作成し掲示した。今後は配布資料作成も検討する。

③図書展示方法の見直し

新着図書コーナーの図書は、新着案内として背表紙のコピーを図書館入口の掲示板に掲示している。一般書架に移動後も確認できるよう、そのコピーをファイルして新着図書用のブックトラック近くに展示することとした。

④利用者用パソコンのリニューアル

利用者用パソコンの2台は、コンピュータ室のパソコンと同様に利用ができるため学生の利用が多かったが、機種が古く動作不安定となり利用に支障がでていたため、新機種を購入して入れ替えた。

2) 図書館資源を利用した効果的な学習支援について

①貸出・返却を適切に実施し次の利用に対応

返却された図書は一旦カウンターに保管し再チェックしてから書架に配架するが、利用者がカウンター保管中の図書の利用を希望することもある。カウンター設置のパソコン2台を、貸出・返却を切り替えながら全員で処理を行い、利用者が所定の書架で資料を探せるように速やかに配架し対応した。

②資料を探す利用者へのアドバイスと案内

資料探しで迷っている利用者には、随時声がけし、全員で支援した。また、学生向けの雑誌6誌について、新刊を受け入れる際に前号の表紙および目次のコピーし1年分をファイルして参考資料とするなど、文献を探す参考資料の提供にも努めた。

③既存資料の利用状況把握と求める資料の迅速な入手提供

購入希望資料受付(2015年度より実施)も含め、必要な資料を迅速に入手して利用者に提供するため、看護系を中心に、人文社会学・教育・心理学などの資料を選書し蔵書の充実を図った。

2015年度は、図書1,100冊、視聴覚47点を購入した。

選書参考：紀伊國屋・丸善のWeb新刊情報、看護関係出版社HPの新刊情報を随時チェック小冊子のカタログ、新規受入雑誌の別冊情報、教員の学事費購入図書など。視聴覚については、ビデオのメディア変換希望集計結果も参考にした。

④看護系データベースの利用指導について

本学で利用できる看護系の有用なデータベースは、図書館のホームページのデータベース一覧からログインするものと、図書館の利用者用パソコンのみで利用できるものがある。図書館の利用者用パソコンで利用する様子に注目し、随時声がけして検索のアドバイス等を行なった。

⑤有用な視聴覚ビデオ VHS 資料の計画的なメディア変換

2014年度末に変換候補をまとめたリストをもとに、2015年度は本学図書館の所蔵DVDの有無やインターネットで入手可否についての調査を行って絞込み、複数の領域から希望のあった順に一部のDVDを購入した。

3) 図書館の運営に関する企画立案及び運用の効果的な実践について

①Liswave-J 導入による蔵書データ入力

2013年度に図書館システム iLiswave-J を導入して以来、蔵書の遡及データ入力を3ヵ年計画

で進め、最終年度を終えた。データ入力は全員で作業を行い、図書 28,267 冊（資産化資料）、雑誌 684 タイトル、製本雑誌 6,647 冊（資産化資料）、視聴覚 402 点（資産化資料：主に DVD）を入力することができた。この他に看護師国家試験関連資料についても、非資産化資料（KB）として 218 冊のデータを入力し TIME-OPAC（東海大学蔵書検索）で検索可能となった。図書館のシステム化により、貸出の手続きはスムーズになり蔵書検索も便利になっている。

②館員の研修・スキルアップ

図書館の運営にあたり、2015 年度は次の研修に参加して館員のスキルアップを図った。

- 出張 ・2015. 4. 25 「2015 年度日本看護図書館協会第 25 回総会」
 ・2015. 8. 20～8. 21 「日本看護図書館協会 2015 年度 第 48 回研究会」
 ・2015. 9. 4 「平成 27 年度 私立短期大学図書館教職員研修会」
- 研修会 ・2015. 8. 11 ハラスメント研修：出勤者が調整して参加
 ・2016. 2. 15 教職員研修会
 ・2016. 2. 25 倫理教育研究会
 ・2016. 3. 3 FD・SD 研修会

4) 図書館事務室の業務処理及び環境の改善の企画立案・運用について

館員の業務の作業効率を上げるため次の環境改善を行なった。

①図書館専用のノートパソコン購入

J 館にある閉架書庫はインターネットを使える環境がないため、従来は短大事務室からノートパソコンを借用し USB を使用して作業していたが、図書館専用の最新機種を持つことで随時必要に応じた作業が可能となった。特に除籍作業では蔵書データとの照合が重要なため蔵書の Excel ファイルを有効活用して作業することができた。

②図書館用 FAX のリニューアル

外部機関との連絡には E-mail や FAX を使用するが、図書館用の FAX は機種が古く故障がちとなっていたため、コンパクトで操作の分かりやすい機種を購入して入れ替えた。

③iLiswave-J 作業用パソコンの追加

iLiswave-J のシステムは東海大学附属図書館中央図書館が統括し、使用するパソコン（iLiswave-J 設定済）の台数も決められている。本学図書館は 3 台（カウンター用 2 台・事務用 1 台）で運用を開始したが、遡及データを円滑に作業するにはパソコンの追加が必要として、中央図書館担当者と連絡調整し追加 1 台を要請した。現在設置時期の調整待ちとなっている。

5) 情報の一元管理及びファイリングシステムの企画立案・運用について

図書館の情報の一元管理として、蔵書点検と除籍を次のとおり実施した。

①蔵書点検

2016 年 3 月に図書館を開館した状態で 3 月 14 日(月)～3 月 18 日(金)に K 館開架図書 12,151 冊を対象に実施し、全冊所在確認済の結果を得た。2014 年度(2014 年 8 月)に iLiswave-J 導入後、初めて資料 ID 読み取りによる蔵書点検を実施。2015 年度は東海大学附属図書館の蔵書点検スケジュールに加わり、看護師国家試験終了後で日程調整し 3 月中旬実施とした。今後も同様に

実施時期を調整し、利用者の学習や研究に支障をきたさないようにする。

②除籍

2015年度は図書853冊を除籍した。(2015年8月31日付 学長決裁)

除籍対象はJ館保管の図書で複本があり利用されていないもの(DATEDUEに返却期限日印なし)汚損・破損により利用に適さないもの、雑誌で重複所蔵しているもの、闘病記等で過去20年(1995年以降)貸出記録のないもの、とした。

6 図書館統計

1) 蔵書統計

①総蔵書数(冊)

和書	38,013
和書	2,364
小計	40,377
視聴覚	1,344
合計	41,721

②雑誌総点数(点)

和雑誌	654
洋雑誌	30
合計	684

③年間受け入れ冊数・点数

a. 図書・視聴覚資料冊数(冊)

	和書	洋書	小計	視聴覚	合計
購入	1,100	0	1,100	47	1,147
寄贈	30	8	38	0	38
合計	1,130	8	1,138	47	1,185

b. 雑誌点数(点)

	和雑誌	洋雑誌	合計
購入	182	4	186
寄贈	129	3	132
合計	311	7	318

c. 座席数(席)

38

2) 利用統計

①開館日数・入館者数・複写枚数

開館日数	273日
入館者数	12,796人
複写枚数	19,543枚

②開館時間延長集計

延長開館日数	179日
人数 18:00	753人
人数 19:00	479人

③貸出冊数

	図書	視聴覚	合計	オーバーナイト
学生	3,012	1	3,013	
教職員	1,126	92	1,218	96
同窓生	30		30	
合計	4,168	93	4,261	96

※2013年度より、東海大学の機関(附属4病院含む)に所属する同窓生の貸出は教職員としてカウント。

④相互利用件数

a. 文献複写

イ) 学外からの受付

	伊勢原	その他	合 計
件 数	0	11	11

ロ) 学外への依頼

	伊勢原	その他	合 計
件 数	0	22	22

b. 図書館利用

他機関からの利用者数	350 人
(その内、同窓生的人数)	170 人

7 評価 (効果が上がった事項、改善すべき事項)

1) 効果が上がった事項

①iLiswave-J 導入以前の蔵書検索は図書館設置の指定パソコンのみに限られていた。導入後蔵書データを計画的に入力したことにより、本学図書館の蔵書はインターネット公開となり、図書館以外の場所でも TIME-OPAC での蔵書検索が可能となった。利用者は資料の所在確認がし易く、館員も問い合わせに即時対応できるようになった。利用者の中にはスマートフォンで検索した画面を元に資料を探す姿も見られた。貸出冊数は年度により差異があるが、学生証や身分証による貸出に掛かる時間は大幅に短縮されている。

②蔵書検索が可能となったことで、伊勢原図書館との相互貸借や、湘南校舎の学部学生・大学院生の来館および貸出が増えた。

2) 改善すべき事項

①購入希望受付の広報

図書購入希望について、2015 年度に「購入希望図書受付」用紙による受付を開始し、掲示で周知を図ったが、学生への PR 不足もあり、申込は教員からのみに留まった。学生の要望を取り入れるため、アンケート実施を視野に入れて取り組む必要がある。

②蔵書データ入力の事後処理

蔵書データ入力については、事後処理として金額等の管理データ投入を次年度の課題として残した。データ投入により館員の蔵書管理がし易くなるため計画的に作業を進める必要がある。

③資料の利用状況の把握と活用

図書・雑誌・視聴覚についての利用状況把握は十分といえない。「文献複写申込書」「視聴覚資料閲覧票」「出納票」といった利用者が記入する申込書の記録を活用し、集計・分析して必要な資料の選書、不要な雑誌の購入中止を検討する必要がある。図書館予算の有効活用につながるため、利用状況の把握は今後の課題である

8 次年度及び次年度以降に向けて

図書館の活動については、2015 年度の MS シートに記載がなかった。しかし、学生や教員の教育及び学術研究に資するためには、図書館の活動は重要である。今後は MS シートに図書館活動を加え、他の委員会との連携を踏まえた活動が必要となる。

図書館の活動を MS シートのどの分野に追加するかは、次年度の検討課題である。次年度に向けた課題として、利用者に図書館利用について説明・指導する機会を増やすこと、図書資料の利用状況把握やアンケート実施、パンフレットや掲示物、ホームページ内容の見直しを含む広報活動の充実、蔵書整備として蔵書データ入力の事後処理、大磯病院に移動した図書の整備、K館およびJ館の書架の配架調整などが挙げられる。特に図書館利用について説明・指導する機会は、学生の場合はガイダンスや1年次授業のみ、教員の場合は紙媒体での案内と随時説明のみと少ない。もっと館員が積極的に学生の講義や実習関連の学習支援に繋がる働きかけの強化が必要であると考え。これらの課題について、MS シートのどの「重点分野」のどの「重点実施事項」「達成目標」に該当するのか、新規項目追加と実施計画も含めて検討し MS シートに加えていく。

9 図書館運営委員会

A 位置づけ

本委員会は、東海大学医療技術短期大学図書館規程第4条に基づき設置された委員会で、次の事項について審議する役割を担う。委員会決定事項は、必要に応じて企画調整会議に回り、教授会で審議・報告される。

- 1) 図書館の企画並びに運営に関すること。
- 2) 図書館の予算の編成並びに実施に関すること。
- 3) 図書館に関する諸規程の制定及び改廃に関すること。
- 4) その他図書館運営上の重要事項に関すること。

B 活動目標

委員会を開催し、各議題について審議して出された意見・提案を館員の図書館活動に反映させる。

C 活動概要

1. 活動概要

委員会は3回（2015年4月、8月、2016年3月）開催し、各議題について審議した結果、次のような意見や提案事項があがり、館員は内容を検討しながら図書館活動につなげた。

第1回（2015年4月）の意見・提案事項

- 1) 遡及データ入力作業について、3ヵ年計画の最終年度のため入力完了を目標に計画的に進める。
- 2) 資料の配架について、学生の目に触れるよう工夫が必要である。
- 3) 図書館利用に関する広報活動、研究・学習支援を促進する。
- 4) 学生の意見を取り入れるため積極的に声掛けする。

第2回（2015年8月）の意見・提案事項

- 1) 図書館の情報検索性 PC をリニューアル予定について、リースも視野に入れて検討する。
- 2) 視聴覚のメディア変換に関して、事務室とも情報の共有が必要である。
- 3) 資料の並べ方・見出しについて、探し易くするための改善が必要である。
- 4) 学生向け雑誌について、目次コピーをファイルして配架するなど利用面での工夫が必要である。
- 5) 利用者への積極的な学習支援を推進する。
- 6) 資料の充実については、利用頻度の高い資料を把握したうえでの新規資料の購入や寄贈資料の受入が必要である。

第3回（2016年3月）の意見・提案事項

- 1) 視聴覚のメディア変換に関して、教授会で2015年度の調査結果を報告し、改めて必要な視聴覚資料の希望を募る必要がある。

2. 委員会開催状況

回	開催日	議題
1	2015年 4月30日（木）	① 2015年度図書館運営委員会基本方針について ② 2014年度決算および業務報告について ③ 2015年度予算および業務計画について ④ 2015年度図書館開館スケジュールについて ⑤ 図書館システム iLiswave-J 導入後の状況と今年度の進行予定について ⑥ その他
2	8月31日（月）	① 第1回図書館運営委員会議事録の確認について ② 2016年度予算について ③ 視聴覚資料のメディア変換について（経過報告） ④ 蔵書点検の実施について ⑤ 図書館システム iLiswave-J 導入計画最終年度の状況報告 ⑥ 学生への学習支援について ⑦ その他
3	2016年 3月10日（木）	① 第2回図書館運営委員会議事録の確認について ② 視聴覚ビデオ資料のメディア変換について（経過報告） ③ 図書館システム iLiswave-J 導入計画最終年度報告 ④ 2015年度図書館活動報告（2016年2月現在） ⑤ 2016年度図書館開館スケジュールについて ⑥ その他

D 評価

1. 効果が上がった事項

- ①例年5～6月に開催していた第1回の委員会を4月開催としたことで、目標・計画を早期に共有して活動を開始できた。
- ②3回開催した委員会において各議題を審議した結果を館員に伝え、図書館活動に反映させることができた。
- ③遡及データ入力作業は、今年度内に入力完了の見込みである。その結果、利用者のTIME-OPACによる蔵書検索が便利になった。
- ④蔵書点検を2月の国家試験後に変更したことにより、学生が試験に向けて学習している時期に静かな環境を提供できた。

2. 改善すべき事項

図書館システム導入計画の最終年度だったが、遡及データ入力を進めていく中で、資産管理に必要な管理データの追加入力が必要と判り、その入力準備も進めることとなった。管理データの入力作業は、館員間で情報を共有し中央図書館とも連携しながら計画的に進める。

E 次年度及び次年度以降に向けて

学生や教員の教育及び学術研究に資するために、委員会で審議した意見や提案を館員に周知し、館員の図書館活動に反映させることは重要である。しかし、図書館運営委員会の活動については、MS シートには記載がなかった。

今後は、MS シートの図書館活動に委員会活動を追加し、新たな委員会構成員と情報を共有しながら活動する。